

第 82 期

中間株主通信

平成22年4月1日から

平成22年9月30日まで

「より高く より広く より深

伝熱・調理・滅菌・殺菌・着色・制御など、タニウムなどの素材を用い「衣・食・住・医・外」に発信しています。



く」 技術で挑戦しています

保有する数々の技術力で、ステンレス鋼・チ
エネルギー」に貢献し「高品位な商品」を国内



社名	株式会社 日阪製作所
英文名称	HISAKA WORKS, LTD.
会社設立	昭和17年5月5日
代表者	代表取締役社長 村上 壽憲
資本金	41億5,000万円
発行済株式総数	32,732,800株
株主数	3,344名
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
従業員数	442名
主たる事業	ステンレスおよびその他の特殊材料を主材料として、機械加工、製缶、溶接、塑性加工などの高度な製造技術と、伝熱(加熱・冷却)、流体制御、蒸発・凝縮、調理・殺菌・滅菌、染色・含浸、電気制御、その他の蓄積した保有技術を駆使し、あらゆる産業の設備・施設に使用される各種のプレート式熱交換器、繊維工業で使用される各種の染色仕上装置、食品工業で使用される各種の調理・殺菌装置、蒸発・濃縮装置、医薬・医療工業で使用される各種の滅菌装置・造水装置、および産業用の各種ボールバルブ、その他の開発・製造販売、並びに各機器および装置のシステムエンジニアリング

営業所および工場

本社

〒541-0044 大阪市中央区伏見町4丁目2番14号(藤村大和生命ビル8階) 電話(06)6201-3531

東京支店

〒104-0031 東京都中央区京橋1丁目11番2号(NTCビル7階) 電話(03)5250-0750

鴻池事業所

〒578-0973 大阪府東大阪市東鴻池町2丁目1番48号 電話(072)966-9600

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご支援を賜り、ありがたく厚くお礼申し上げます。

さて、当社第82期（平成23年3月期）の中間決算をいたしましたので、ここに中間期の事業の概況をご報告申し上げます。

事業の概況

1. 経営成績

経営成績に関する分析

当第2四半期累計期間（平成22年4月1日～平成22年9月30日）におけるわが国経済は、新興国需要の拡大に伴う輸出や生産の増加に加え、政府による消費刺激策等が一定の効果をあげるなど、緩やかな回復局面となりました。その一方、欧州諸国の財政悪化、長期化する円高、デフレ経済の進行等による先行き減速懸念が強まっております。

このような状況の中、当社はコスト競争力強化と採算性確保のための合理化及び経費削減に全社一丸となって取り組んだ結果、利益面では一定の効果が現れました。しかし、受注については前年同期を上回ったものの、景気回復が緩やかであったことなどから計画値を下回ることとなりました。また、売上については国内市場を中心とした設備投資関連が想定より伸びず、期中での積み上げが厳しかったことにより計画値を若干下回ることとなりました。

グローバル化の一環で進めておりました中国現地工場は本年8月末に完成し、同9月から熱交換器の生産を開始するにいたしました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の受注高は8,531百万円（前年同期比105.6%）、売上高は9,644百万円（同69.2%）となりました。

利益面につきましては、営業利益は528百万円（同39.3%）、経常利益は661百万円（同45.2%）、四半期純利益は363百万円（同40.9%）となりました。

また、全社の輸出売上高は1,541百万円（同25.3%）、輸出売上比率は16.0%（前年同期43.7%）となっております。使用総

資本金は46,350百万円（前期末比100.9%）、うち自己資本は39,853百万円（同98.8%）で、自己資本比率は86.0%（前期末87.8%）となりました。

次にセグメント別の概況を申し上げます。

＜セグメント別概況＞

『熱交換器事業』

受注については、国内の設備投資関連は依然として鈍いものの、新興国向けに輸出される設備が増加したことにより、それらに付属する中小型の基盤機種には受注増加がみられ、堅調に推移いたしました。一方、海外の大型プラント案件においては、円高による競争激化や製品単価の下落等が継続し、受注を見合す案件もあり、計画を下回ることとなりました。

売上については、過年度に積み上げた受注残の売上及び中小型の基盤機種の堅調さから、概ね計画通りの推移となりました。

セグメント利益については、歩留まり改善やコスト削減、内製化の徹底及び採算重視の営業に積極的に取り組んだことから、計画を上回ることとなりました。

以上の結果、熱交換器事業の受注高は4,379百万円（前年同期比106.8%）、売上高は5,640百万円（同55.7%）、セグメント利益は561百万円となりました。

『生活産業機器事業』

受注については、医薬機器関係で設備投資の延期などがあり、計画を大幅に下回りましたが、染色仕上機器関係において中国・東南アジアの経済成長にリンクするかのようになり、旺盛な引合いから正式受注になるなど計画値を上回りました。また、国内を中心とした食品機器関連では、猛暑の影響もあり食品業界の設備投資に回復の兆しがみえ、引合いが活発化するなど、第3四半期以降に期待が持てる状況となりました。

売上については、受注残の低水準を短納期品でカバーする計画でありましたが、期待した積上げには至らず、計画値を

下回ることとなりました。

セグメント利益については、未だ水面下の状況ではありませんが、第3四半期以降の受注残が積み上がっていることから、通期でのセグメント利益の黒字化が見込める状況となりました。

以上の結果、生活産業機器事業の受注高は2,794百万円（前年同期比101.6%）、売上高は2,621百万円（同105.0%）、セグメント損失は72百万円となりました。

『バルブ事業』

受注については、国内設備投資の回復や重点市場への取り組み強化、新製品の引合い増加などにより順調に推移いたしました。また、摺動しないボールバルブである「Duax」の当初開発目的であったLNGプラント向け引合いをプラントメーカーから頂き、今後の拡販に期待が持てる状況となりました。

売上についても、国内設備投資の回復等により、計画を上回る結果となりました。

セグメント利益については、コスト削減や内製比率の向上及び高採算アイテムの売上などにより、黒字となりました。

以上の結果、バルブ事業の受注高は1,357百万円（前年同期比110.8%）、売上高は1,381百万円（同105.5%）、セグメント利益は36百万円となりました。

2. 通期の見通し

平成23年3月期の通期予想は、売上高20,000百万円、営業利益1,000百万円、経常利益1,200百万円、当期純利益700百万円の見込であります。

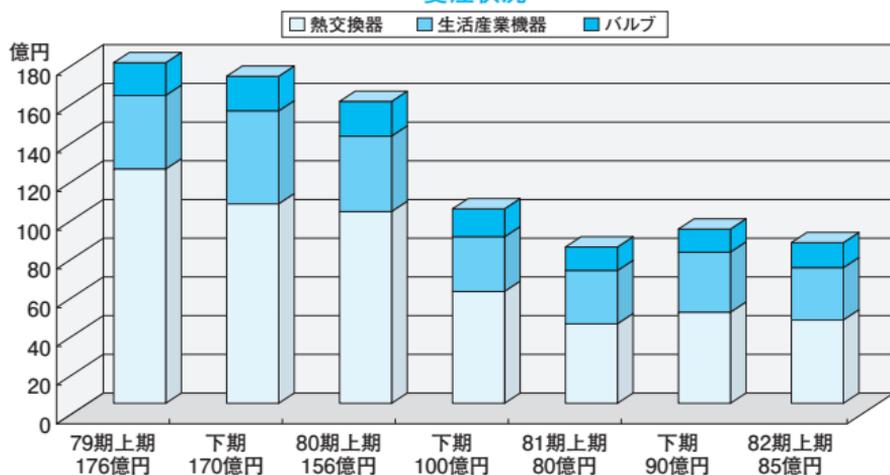
株主の皆様には何卒今後とも一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

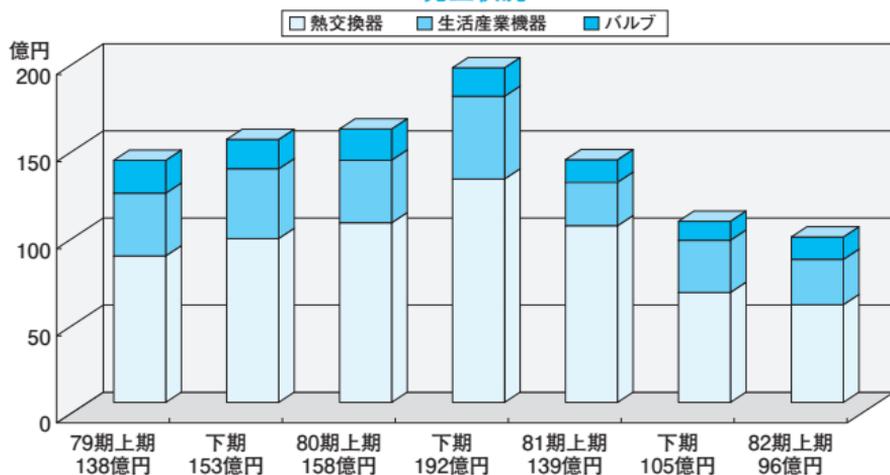
代表取締役社長 村上 壽 憲

業績の推移

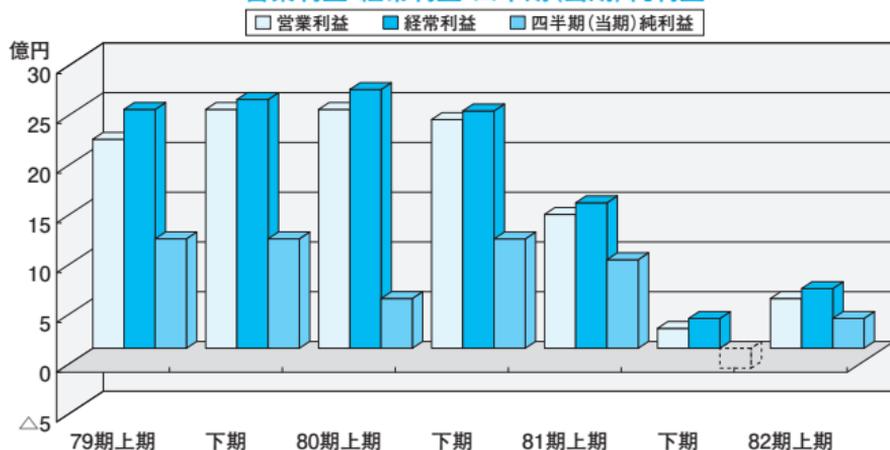
受注状況



売上状況



営業利益・経常利益・四半期(当期)純利益



※金額は億円以下を切り捨てて表示しております。

第2四半期損益計算書

(単位：千円)

期 別 科 目	前第2四半期累計期間 (自 平成21年 4月 1日 至 平成21年 9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成22年 4月 1日 至 平成22年 9月30日)	前事業年度の要約損益計算書 (自 平成21年 4月 1日 至 平成22年 3月31日)
	金 額	金 額	金 額
売 上 高	13,937,992	9,644,078	24,465,807
売 上 原 価	11,125,544	7,812,644	20,068,230
売 上 総 利 益	2,812,447	1,831,433	4,397,576
販売費及び一般管理費	1,467,369	1,302,821	2,782,111
営 業 利 益	1,345,078	528,612	1,615,465
営 業 外 収 益	182,173	147,242	294,636
営 業 外 費 用	64,376	14,432	94,339
経 常 利 益	1,462,874	661,422	1,815,762
特 別 利 益	—	23,371	—
貸倒引当金戻入益	—	10,000	—
固定資産解体費用戻入益	—	13,371	—
特 別 損 失	—	102,450	912,790
固定資産除却損	—	—	739,790
有価証券評価損	—	92,450	123,000
貸倒引当金繰入額	—	—	50,000
建物解体撤去費用	—	10,000	—
税引前四半期(当期)純利益	1,462,874	582,343	902,971
法人税、住民税及び事業税	583,000	218,500	515,000
法人税等調整額	△ 10,292	34	△ 217,837
四半期(当期)純利益	890,166	363,808	605,809

第2四半期貸借対照表

(単位：千円)

期 別 科 目	前第2四半期末 (平成21年9月30日現在)	当第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前事業年度の要約貸借対照表 (平成22年3月31日現在)
	金 額	金 額	金 額
(資産の部)			
流動資産	18,758,900	16,760,169	15,664,433
現金及び預金	1,944,464	3,937,536	1,647,435
受取手形及び売掛金	8,680,193	6,797,297	7,626,826
たな卸資産	6,573,231	4,212,330	4,715,434
その他	1,581,010	1,823,004	1,694,736
貸倒引当金	△ 20,000	△ 10,000	△ 20,000
固定資産	30,696,433	29,590,629	30,264,174
有形固定資産	15,710,435	14,414,362	14,734,989
建物	10,586,457	9,350,605	9,712,560
機械及び装置	3,355,684	2,692,204	2,989,053
その他	1,768,294	2,371,552	2,033,375
無形固定資産	103,800	83,408	85,888
ソフトウェア	89,598	74,887	74,527
その他	14,201	8,521	11,361
投資その他資産	14,882,197	15,092,858	15,443,296
投資有価証券	12,359,463	12,099,754	13,004,855
その他	3,142,464	3,662,564	3,108,171
貸倒引当金	△ 619,730	△ 669,460	△ 669,730
資産合計	49,455,334	46,350,798	45,928,607

(単位：千円)

期 別 科 目	前第2四半期末 (平成21年9月30日現在)	当第2四半期末 (平成22年9月30日現在)	前事業年度の要約貸借対照表 (平成22年3月31日現在)
	金 額	金 額	金 額
(負債の部)			
流動負債	8,509,774	6,121,815	5,285,142
支払手形及び買掛金	3,557,712	3,963,269	3,538,345
短期借入金	3,000,000	—	—
未払法人税等	636,831	259,270	—
未払消費税等	240,349	—	415,290
引当金	553,500	458,700	480,100
その他	521,381	1,440,575	851,406
固定負債	141,608	375,291	296,619
退職給付債務	105,340	345,061	263,354
その他	36,267	30,229	33,264
負債合計	8,651,382	6,497,106	5,581,762
(純資産の部)			
株主資本	40,407,513	39,853,691	40,346,845
資本金	4,150,000	4,150,000	4,150,000
資本剰余金	8,814,450	8,814,450	8,814,450
利益剰余金	27,678,750	26,978,533	27,004,540
自己株式	△ 235,688	△ 240,856	△ 238,620
評価・換算差額等	396,438	151,564	616,475
その他有価証券評価差額金	335,363	119,330	601,686
繰延ヘッジ損益	61,074	32,233	14,788
純資産合計	40,803,951	39,853,691	40,346,845
負債純資産合計	49,455,334	46,350,798	45,928,607

取締役

取締役社長
(代表取締役) 村上 壽 憲

専務取締役 石丸 治

専務取締役 前田 雄 一

取締役 川西 謙 三

取締役 小西 康 司

取締役 寺田 正 三

取締役 中崎 薫

取締役 入江 梅 雄

監査役

常勤監査役 寺本 恵 成

監査役 田中 等

監査役 吉田 義 晃

会計監査人

太陽ASG有限責任監査法人

株式の状況

(平成22年9月30日現在)

発行可能株式総数 129,020,000株

発行済株式の総数 32,732,800株
(自己株式 250,580株)

株主数 3,344名

大株主（上位10名）

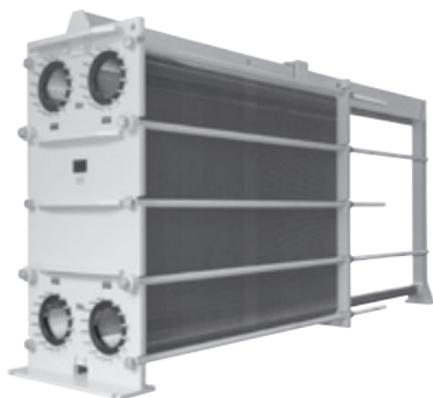
株主名	持株数及び持株比率	
日新製鋼株式会社	3,003千株	9.17%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,961千株	5.99%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,910千株	5.83%
日本生命保険相互会社	1,156千株	3.53%
株式会社みずほ銀行	912千株	2.78%
株式会社三菱東京UFJ銀行	912千株	2.78%
因幡電機産業株式会社	910千株	2.78%
ジュニパー	751千株	2.29%
野村信託銀行株式会社（投信口）	700千株	2.13%
難波君子	691千株	2.11%

所有者別株式分布状況

区分	株主数（名）	株式数（千株）	持株比率（%）
政府・公共機関	—	—	—
金融機関	34	10,377	31.70
金融商品取引業者	21	211	0.65
その他の法人	154	9,800	29.94
外国法人等	97	4,524	13.82
個人・その他	3,037	7,568	23.12
自己名義株式	1	250	0.77
合計	3,344	32,732	100.00

当社の代表的製品

■プレート式熱交換器



プレート式熱交換器 (PHE) は、「高効率」「省エネ」「省スペース」「メンテナンス性」の4拍子揃った理想の熱交換器。

ステンレス鋼やチタニウムなどの薄板に波形パターンをプレス加工して伝熱プレートとし、これにシール用ガスケットを装着し、必要枚数を重ねて締め付け、プレートの凹凸により各プレート間にできた隙間を流路として利用する熱交換器です。化学・食品・空調・電力など、あらゆる産業分野で使用されています。

■ブレイジングプレート式熱交換器



ブレイジングプレート式熱交換器 (BHE) は従来のガスケットタイプのプレート式熱交換器の高い経済性と高性能をそのまま受け継ぎ、ブレイジングテクノロジーとの融合により、さらに軽量・コンパクト・堅牢・経済性を実現した熱交換器です。

アンモニアやフロンなどの法的規制のある流体にも対応できます。

■Duax ボールバルブ



ボール回転時、ボールシートとボールが摺動しない画期的なボールバルブです。ボールとボールシートが摺動しないため、従来のボールバルブと比較し、作動トルクが軽く、摺動による傷や摩耗が発生しません。

摩耗性の激しい粉粒体の輸送、粉体、スラリーを含む流体を高頻度で開閉されるような過酷な条件下での長寿命化を実現しています。

■ レトルト殺菌装置



レトルト殺菌装置は、熱水スプレー式・熱水貯湯式・蒸気式の3タイプ。

食品の種類、容器形状、生産量や自動化対応など、さまざまな条件に最適なシステムをご提案します。

均一な槽内温度分布と再現性が高いことから、医薬品、医療機器の滅菌装置としても高く評価されています。

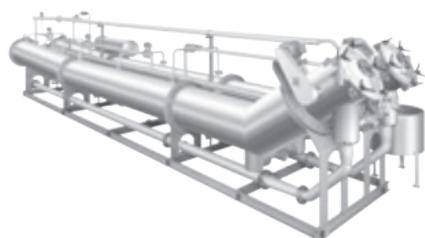
■ 液体連続滅菌装置



高粘度・固形物含有薬品の連続殺菌、無菌充填に適応。伝熱のエレメントにはチューブ、プレート、コルゲートを採用。真空ホールディングチューブなど、処理液の品質を守る高度なシステムです。

また、この技術は飲料、乳飲料、調味料、アルコール類など幅広い液の殺菌に利用されています。

■ 液流染色機



世界を染めた液流染色機サーキュラー「Circular」。時代のニーズによって常に成長し続ける世界の名機は今も健在です。衣料以外の産業資材(カーシート・インテリア・医療品)分野でも活躍しています。

「Circular」の開発は低浴比による省エネルギー、省資源に加え、加工品位の安定化、それによる生産性向上を主体として、これまでに多様な機種を提供しています。

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 (その他必要あるときはあらかじめ公告いたします。)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関 同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒541-8502 大阪市中央区伏見町3丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話 0120-094-777 (通話料無料)
公告方法	電子公告：当社ホームページ http://www.hisaka.co.jp/denshi (但し、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。)
上場証券取引所	東京・大阪証券取引所 市場第1部
ホームページアドレス (URL)	http://www.hisaka.co.jp

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。